

日本統計研究所

【2025 年度 大学評価総評】

2025 年度自己点検・評価シート、2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書、2025 年度中期目標・年度目標達成状況報告書によれば、目標達成状況は非常に良好である。国際ワークショップの 2 回開催、外部評価委員による評価実施、国民経済計算の論文刊行といった活動成果を着実に上げている。また、研究成果をもとに日本政府委員会や整備部会などに参加し、積極的な発言を行った。日本社会の課題解決に向けて本研究所の研究成果を積極的に発信し、日本政府の統計整備に対して大きな役割を果たしている。国際的な研究交流を進めつつ、具体的な研究成果を出し、社会に対して発信していくという有益な活動から今後もすぐれた成果が期待できるといえよう。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

2024 年度自己点検・評価シート、2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書、2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書を見る限り、目標達成状況はきわめて良好である。3 年間コロナ禍で中断していた国際ワークショップを再開するなど改善も進んでいる。SDGs 達成にあたって統計の整備が大きな役割を果たすことから、政府統計の整備は、国際的に重要な課題となっている。日本政府に対して、民の側からの意見を反映させていくとともに、国際的な研究交流を進めつつ、具体的な研究成果を出していくやり方からは、引き続き、すぐれた成果が期待できる。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

引き続き国際ワークショップを開催し、そこで得た知見に基づき、政府統計の整備に貢献するため、統計委員会等、政府が開催する統計関係の会議で提言していきたい。

(1) 改善・向上の取り組み(教員・教員組織)

研究所(センター)内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。 ＜対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
＜内容＞		

(2) 改善・向上の取り組み(社会連携・社会貢献)

社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。 ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
＜内容＞		

Ⅱ. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

研究所（センター）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		理念・目的
中期目標		統計分野における総合的調査研究機関として、研究ならびに実践の両面において、官学連携の「学」側の拠点施設としての多面的な活動を展開する。
年度目標		統計分野における総合的調査研究機関として、研究ならびに実践の両面において、官学連携の「学」側の拠点施設としての多面的な活動を展開する。
達成指標		研究集会、国際ワークショップの開催数。所員が政府の会議に参加し、提言を行った回数。
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	国際ワークショップを開催した。また菅が政府の統計委員会に参加し、発言した。
	改善策	—
評価基準		内部質保証
中期目標		外部評価委員による評価を実施する。
年度目標		外部評価委員による評価を実施する。
達成指標		外部評価委員による評価の有無。
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	外部評価委員2名による評価を実施した。
	改善策	—
評価基準		研究活動
中期目標		国民経済計算、歴史統計に関する研究を拡充する。
年度目標		国民経済計算の研究として SUT（供給・使用表）の研究を行う。
達成指標		SUT（供給・使用表）の論文の有無。
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	SUT に関する論文を刊行した。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		わが国の政府統計機関に対し、国際水準の統計データを作成、提供できるようなシステム構築や技術面での対応に関する各種助言を政府委員会等で行うことで、研究成果を現実の統計行政へ反映させる活動を行う。

年度目標	研究集会、国際ワークショップを開催する。所員が政府の会議に参加し、提言を行う。	
達成指標	研究集会、国際ワークショップの開催数。所員が政府の会議に参加し、提言を行った回数。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	国際ワークショップを2回開催した。また菅が政府の統計委員会に10回参加し、発言した。なおこの他に国民経済計算体系的整備部会にも2回参加し、発言した。
	改善策	—
【重点目標】 経済統計研究部門と数理統計研究部門が相携えて相互の発展に寄与する。		
【目標を達成するための施策等】 両部門が相携えて相互の発展に寄与できるような共通のテーマを創設する。		
【年度目標達成状況総括】 コロナ禍が終わり、ようやく国際ワークショップを再開することができた。そして本研究所における研究活動の成果に基づいて、政府の統計委員会において積極的に発言することができた。		

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	統計分野における総合的調査研究機関として、研究ならびに実践の両面において、官学連携の「学」側の拠点施設としての多面的な活動を展開する。
年度目標	統計分野における総合的調査研究機関として、研究ならびに実践の両面において、官学連携の「学」側の拠点施設としての多面的な活動を展開する。
達成指標	研究集会、国際ワークショップの開催数。所員が政府の会議に参加し、提言を行った回数。
評価基準	内部質保証
中期目標	外部評価委員による評価を実施する。
年度目標	外部評価委員による評価を実施する。
達成指標	外部評価委員による評価の有無。
評価基準	研究活動
中期目標	国民経済計算、歴史統計に関する研究を拡充する。
年度目標	国民経済計算、歴史統計に関しても研究を実施し、論文を刊行する。
達成指標	SUT（供給・使用表）および歴史統計の論文の有無。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	わが国の政府統計機関に対し、国際水準の統計データを作成、提供できるようなシステム構築や技術面での対応に関する各種助言を政府委員会等で行うことで、研究成果を現実の統計行政へ反映させる活動を行う。
年度目標	研究集会、国際ワークショップを開催する。所員が政府の会議に参加し、提言を行う。
達成指標	研究集会、国際ワークショップの開催数。所員が政府の会議に参加し、提言を行った回数。
【重点目標】 経済統計研究部門と数理統計研究部門が相携えて相互の発展に寄与する。	
【目標を達成するための施策等】 両部門が相携えて相互の発展に寄与できるような共通のテーマを創設する。	